

ネットワーク型RTKの仕組み

1 24時間連続で誤差要因の状況を監視

ジェノバセンターでは、国土地理院が数十km単位で配置している電子基準点のリアルタイム観測データを24時間連続受信し、解析をしています。これにより電子基準点で囲まれるエリア上空の電離層、対流圏の状態や衛星の軌道に関する情報を掌握しています。

2 測量する場所の概略位置をジェノバセンターへ送信

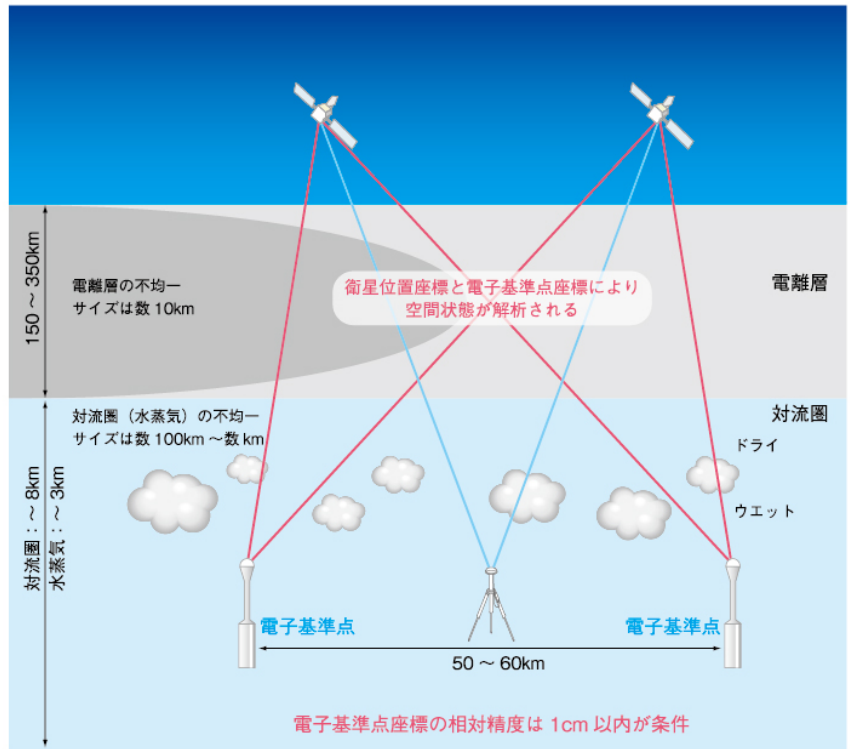
利用者は測量する場所で概略位置(単独測位等による)を携帯電話等の通信手段によりジェノバセンターに送信します。

3 仮想点・面補正パラメータ方式の基準局を使った相対測位の補正情報を配信

ジェノバセンターでは、解析した電離層などの情報に基づき利用者から送信された概略位置により補正情報を計算し、利用者に配信します。

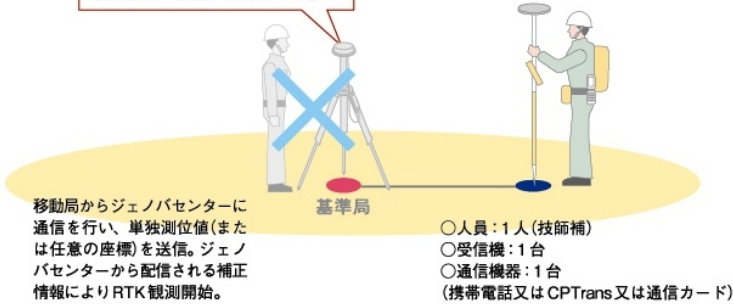
4 補正情報で高精度の位置情報を取得

利用者はジェノバセンターから送られてくる情報により、高精度な測位が行えます。



ネットワーク型RTK測量のメリット

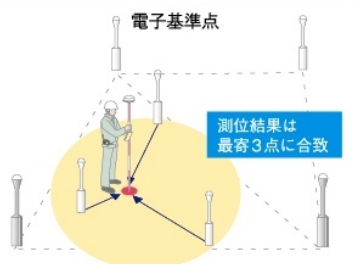
ネットワーク型RTKでは
固定点の設置・観測が不要!



移動局からジェノバセンターに通信を行い、単独測位値(または任意の座標)を送信。ジェノバセンターから配信される補正情報によりRTK観測開始。

Point ネットワーク型RTKの測位結果

JENOBA方式で配信される仮想補正データは、常に最寄りの電子基準点3点の成果に合致します。これにより、新点上で10エポック観測(単点観測)のみであっても電子基準点3点を利用した網平均計算結果と同等の観測結果となります。



大幅コストダウンを実現!
人員2人、受信機2台が1人、1台の作業環境に!

特長1 固定点の設置・管理不要

従来のRTK-GNSS測量では、固定点の選定や踏査が必要になり、その維持管理にも大きな労力を費やしましたが、ネットワーク型RTKの場合、電子基準点をベースとした補正情報等を利用しますので基準局に関する作業が全て不要になります。

特長2 1人1台の観測を実現

ネットワーク型RTKは移動局のみの観測になる為、1人1台の観測が可能になり、大幅なコスト削減が図れます。当日の現場状況によって作業スケジュールを変更する等、ネットワーク型RTKならではの、自由な段取りで真の効率化を実現します。

主な用途

- 基準点測量
- 地形測量
- 路線/縦横断・河川/深淺・用地/境界
- 基礎測量、一筆地測量
- 杭打ち
- 航空測量